

# 聴覚失認者にも分かりやすい注意喚起のための チャイムを探る視聴覚実験

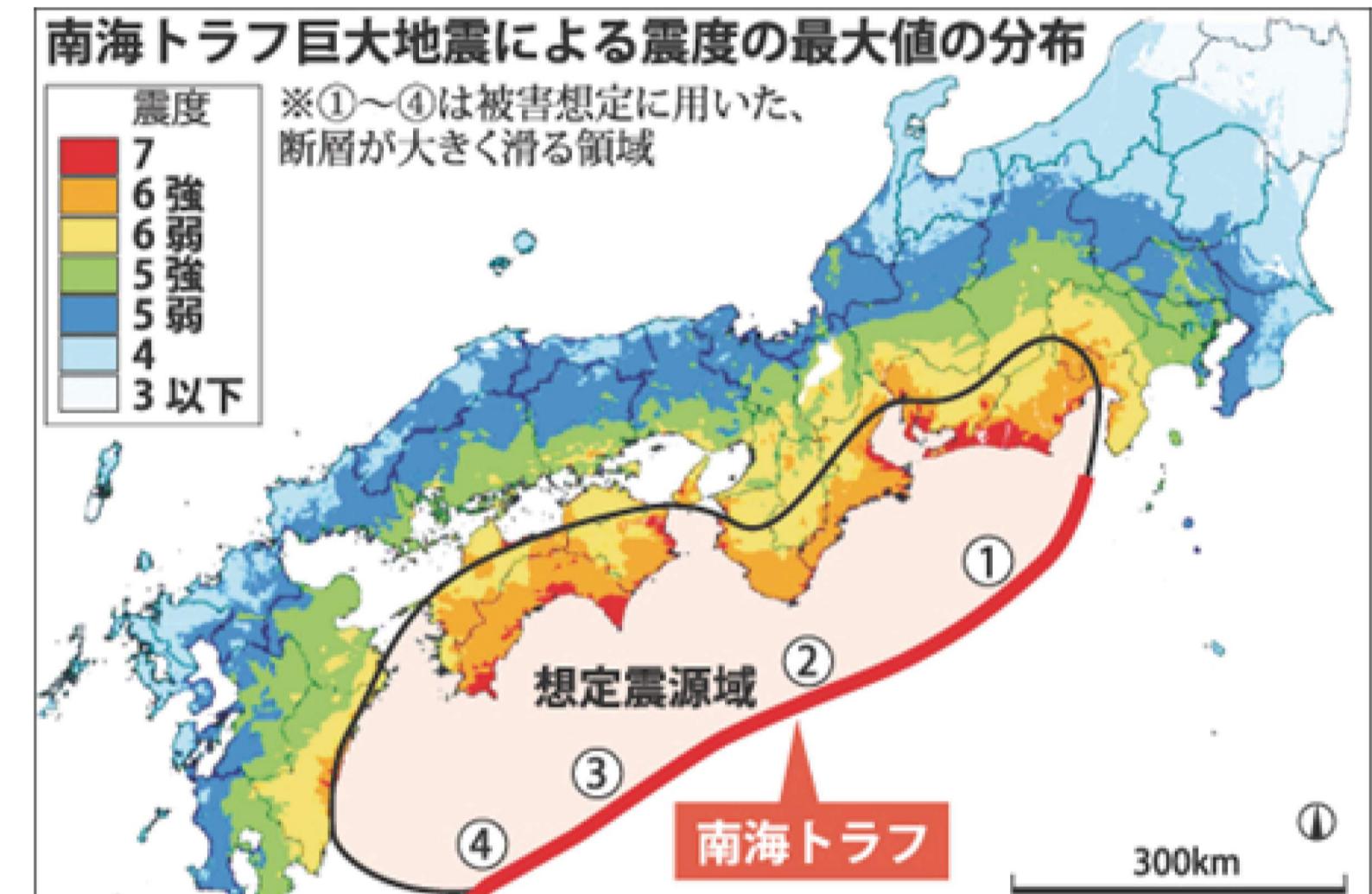
自然・環境再生研究部 コミュニケーション・デザイン研究グループ 三谷 雅純



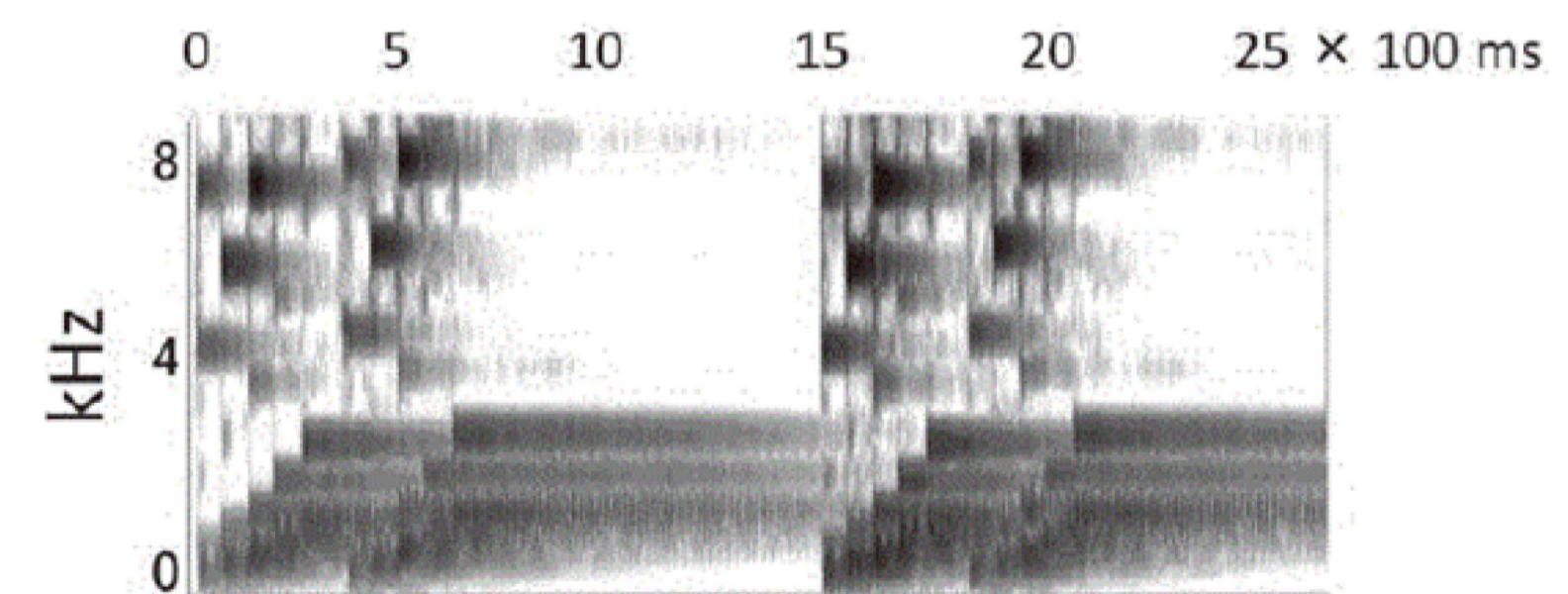
緊急災害放送のような避難情報では、これまでにも難聴者に聞こえやすいチャイムが選ばれたことがあります。有名な例ではNHKや気象庁が使う緊急地震速報です。地震速報は人によって「聞こえない」ということがあってはならないという前提で、北海道大学で福祉工学を研究している伊福部達さんが難聴の方にも聞こえやすいチャイムを選びました。

ところが難聴者と違って聴覚失認者は、耳の聞こえは問題がないのに脳に届いた言葉が機械の音のように聞こえ、人の声だと認識できない人がいます。また注意喚起のために災害情報に先立って発信されるチャイムも、その聴覚失認者への注意喚起力は不明のままでです。聴覚失認者は災害や事故の時、情報の受け取りが保障されていないのです。この保障は公共放送だけでなく、「どのような人にも開かれた生涯学習施設」であるはずの博物館や美術館、図書館などでも、ぜひ解決していかなければならぬ問題です。

わたしは高次脳機能障がいや失語症の当事者にお願いして、聴覚失認者の言語音の認知に関する研究を続けています。どのような形式の視聴覚媒体であれば有効なのでしょうか？南海トラフ地震の発生が迫る中、急いで研究を進展させねばなりません。



中央防災会議（2012）



NHK緊急地震速報の報知音（チャイム）を広域帯  
スペクトグラムによって視覚化したもの（三谷, 2018）